

平成28年度 学校評価委員会

平成29年3月

学校法人織田学園 おだ認定こども園

1. 教育方針・教育目標

- ・豊かな生活体験を通して、自我の育ちを助長し「生きる力の基礎」となる「心情」「意欲」「態度」を培う
- ・自己肯定感の持てる子どもに「元気でたくましい子」「自分や人を大切に思える子」「感性豊かな子」

2. 教育理念

- ・おだは3つのたくましさを育てます「体のたくましさ」「心のたくましさ」「人と繋がるたくましさ」

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価:A・・・達成できている/B・・・ほぼ達成できている/C・・・あまり達成できていない/D・・・達成できていない

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点		意見	
教育内容	体のたくましさ	・個々の発達を確認	B	教師の関わりや援助のもとに子ども達が自らやりたい遊びを見つけて取り組んでいるが教師の主導とならないように今後も指導方法や内容等一人ひとりの成長に見合ったねらいを持って関わっていききたい	子どもの対応には乳児はキケンや安全に気を配るが、幼児同士のトラブルは子どもの納得の仕方が大切である。教師は子どもの発達を見極めながら子どもと一緒に対処していく事が大切。
		・身体の動きを意識した遊び	B	今年度は、各学年において怪我につながらないように体幹を意識して指導の中に取り入れていった。	園庭で遊ぶ子どもの姿を見学。保育者も積極的に子ども達と関わり元気に遊んでいる姿があった。保護者が手作りのベンチやお家などがあり、大人と一緒に子どもの育ちを育んでいる、温かみを感じる今後も一緒に取り組んでいくと良い。
		・食育指導	B	子ども達が食に興味をもてるように、見る・触れる等五感を通して、その日の給食に使われる食材を展示した	給食を試食し、これから育つ子どもの食の安全性や食を楽しむ事を実践していて、ご飯も自園給食ならではの美味しさがあった。
	心のたくましさ 今年度重点目標	・様々な体験の中で失敗や成功を繰り返しながら気持ちを立て直す力 ・もう一度やってみようとする意欲	B	教師や保育者が子どもの思いに共感し、次につながる思いを持って見守り、接していけるように考察する力を付けていく事が必要	今後も同様に努力されたい
		・子どもが興味、関心を持つ挑戦する成功体験を味わえる充実した保育の実践	B	子どもの発達を理解し、子ども自らが取り組める楽しさが経験としてあることに視点を見極めていく	今後も同様に努力されたい
	人と繋がるたくましさ	・いきいきと自己表出でき、ありのままの自分を受け入れてもらある安心感を通して人とコミュニケーションをとる楽しさを感じ、生活を楽しめる力を身につける	B	子供同士の関わりの中で自分の思いを伝えたり相手の思いを聞くことができるような機会が行事などを通して育まれていった。	子どもの一年間の育ちのまとめとした、子ども会を観劇する中で子どもが自信を持って取り組む姿があつて良い。
・日々の保育で一人ひとりのコミュニケーション能力 ・自信が持てる保育の実践		B	教師や保育者といった信頼できる大人と一緒に活動や生活をする中で、子ども自ら考えをもち、行動していく事ができるような環境をつくる事が必要である。	子どもにとって小さいときから地域との関わりのなかで地域に役立っていることから人とつながるたくましさにつながる。挨拶をすることだけでも下地があることが大切。	

安全管理	施設・設備に対する安全対策	A	テラスの柱には、衝撃が少なくするため弾力のあるマットでカバーした	今後も同様に努力されたい
	衛生に対する安全管理	A	感染症の情報を配布物や掲示し情報共有をしていく事に努める	今後も同様に努力されたい
	園児に対する安全管理	A	保護者証を配布し来園時には必ず保護者証の提示ができるように徹底をしていくマニュアルの共有を徹底していく	今後も同様に努力されたい
	通園に関する安全管理	A	バスの定期点検と添乗員も職員研修に参加し子どもの関わりを学ぶ機会をもつ	多摩市は、学区域に防犯カメラを設置することとなった。自転車の盗難が多い。子どもを守るためにも情報を共有していく事が大切。
地域との連携	園開放の充実を図る	B	近隣の児童館や幼児の活動の場などと情報交換を行ったり園庭開放行うなど家庭保育の保護者の支援も積極的に取り組んでいった	子育て支援に模索中である近隣麻の葉の活動では、子育て支援室からの情報を発信し参加者が増えて良かった。保護者は、何かに所属したい気持ちが強い。家の中にこもってしまわないように支援が必要
	近隣小学校との交流を図り、相互理解に努める	B	近隣小学校の運動会において未就学児参加ゲームに参加する	親同士の情報交換の場としても今後も積極的に続けてほしいかと考えます。保護者の不安を和らげる効果がとても大きいと感じます。
	地域の行事には積極的に参加する	A	子ども夏まつりにおいて職員らは綿菓子づくりに貢献する	事前にこのような経験をすることで、小学校への更なる期待や安心感を持てるようになりまたスムーズな小学校への移行へと良いのではないかと思います。
	近隣遊歩道の清掃(アダプト会)	A	園の花壇に園児手書きの花の名札を掲示する	地域の植栽や清掃に職員と共に園児が参加するのは大変良い経験だと思いますしその様子を見て地域の方々が関心を持ち園児との交流を持つ良い機会になるのではないかと思います。
第三者評価	第三者評価受審を実施	B	園に向けての理解や信頼が高い結果であったが、保護者が求める思いを汲み取ったり、園の発信力を強化していく必要がある	公表を真摯に受け止めながらも、園の目的意識をしっかりとって改善と育成に努めていってください。